



タジキスタン共和国研修員受け入れ

助教授 山岸 映子



2005年11月14日にタジキスタン共和国から6名の研修生を迎え、JICAの国別研修「母と子のすこやか支援プロジェクト」がスタートしました。タジキスタン共和国は中央アジアに位置し、人口約700万人、国土の90%が山岳地帯で産業は農業(綿花・牧畜)とアルミニウム産産が主です。1991年ソビ

エト連邦の崩壊で独立したのですが、直後から内戦が続き1997年ようやく和平が合意されました。しかし、内戦による社会基盤の崩壊や経済の低迷からインフラ整備も遅れ、乳幼児死亡率や妊産婦死亡率も高く深刻な状況にあります。

今回の研修は母子健康手帳を中心とした日本の母子保健サービスについて理解を深め、プライマリーヘルスケアに基づいた地域母子保健活動体制を確立しようとするものです。研修生は南部のハトロン州の保健局長とシャールトゥズおよびダンガーラ地区の地区中央病院長や産科医、看護師長達です。カントリーレポート作成の事前プログラムから始まり、本邦での研修を経てアクションプランを作成し、最終評価会を終え12月23日吹雪の中帰国の途につきました。

公用語はタジク語ですが、研修ではロシア語で通訳を介して行われました。英語が全く通じないのですが、学生達との交流会(写真)ではとても楽しい時間を過ごすことができました。タジクの母と子が健康であるように研修生達には帰国後大いに努力してもらわなければなりません、それには研修プログラムの内容はもちろん、研修をとおして出会った多くの人々との出会いが彼らの後押しをしてくれると考えます。今年また新たな研修生達を迎えます。今後タジキスタン共和国の人々とさまざまな形で結びつきが深まる事が期待されます。

目次

タジキスタン共和国		夏期アメリカ看護研修報告	4
研修員受け入れ	1	第6回看大祭を終えて	5
平成17年度卒業式・学位授与式	2	サークル活動紹介	5
卒業生の言葉	2	この1年を振り返って	6
卒業研究発表会	3	図書館から	8
修士論文発表会	3	看護大学卒業生生活活動支援研修から	8
卒業生の内定状況	3	キャンパススケジュール	8



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

大学 看護学部看護学科
大学院 看護学研究科

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>
E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

大学の主な動き

平成17年度卒業式・学位授与式

3月18日、好天のもと、平成17年度卒業式・学位授与式が行われ、学部生93名（男子5名、女子88名）・大学院生9名（男子1名、女子8名）が学舎を巣立った。

一人一人に卒業証書・学位記が授与された後、金川学長が「本学の卒業・修了生としての誇りと責任感をもつこと、学問として学んだ看護学を実践の科学として開花させること、人間関係を大切にすること」の3点を心に銘じてくださいとはなむけの言葉を贈った。

また、杉本副知事から「人々に安心を与え、心の痛みを理解できる専門職として、高い志を持って、新しい道を歩んでください」との知事告示が贈られた。

在学生代表の3年延川恵里さんの送辞に対し、卒業生代表の原陽子さん・修了生代表の直井千津子さんが答辞を述べた後、音楽サークルの合唱のなか102名を送った。



卒業生の言葉



4年 廣瀬 晶子

私にとって、4年間の財産は多く出会いと経験です。実習や研究で関わらせて頂いた患者さんをはじめ、友人や後輩、先輩、先生方とのかけがえのない出会いがありました。特に共に学び、共に語り合った仲間存在は大きく、どのような時も支え合いながら日々過ごすことができました。また、サークル活動やボランティア活動、海外看護研修など学内外の活動に挑戦し、二度とない貴重な経験をさせて頂きました。このことから、より感性を高め、人間性を深めることができました。そして、私はこの多くの出会いと経験から、人間を対象とする看護の奥深さを学び、自分の目指す看護について考えることができましたように実感しています。今後、様々な不安や困難にぶつかる中で、この4年間の出会いや経験がモチベーションを高め、乗り越えられる原動力になると思います。大学での出会いの機会は多くあります。その中で一つ一つをどれだけ大切に、自分の経験値を高めるかによってその価値は無限に広がります。私は、この素晴らしい機会をいかし、自分の目指す看護を追求していきたいと考えています。



大学院2年 篠崎 智範

私は、法学研究科で司法的観点から児童虐待を研究していましたが、予想以上に問題の深刻さを感じ、児童虐待そのものを研究したいと思ひまして、本学に入学しました。そこで学んだことは、自分の研究テーマにおいては勿論、研究分野毎に異なる判断基準や価値観が存在するという事でした。「誰かのため」という「目的」は同じはずですが、法律における「人権論」と看護における「看護者の患者への想い」にも違いがあることを再認識できました。本学に入学するまでは、自分の価値観・判断基準が偏りがちでしたが、異なった視点で物事を分析することで、「視野」が広げられたと感じています。また、同じ看護者でも、教員や院生の方々にも、様々な判断基準価値観があることを発見しました。それらが衝突しあったり、融合して一喜一憂する自分以外の「同級生」と一緒にいることで、自分自身の物事の捉え方にも好影響をもたらしてくれていると感じることも自分の喜びでした。また、院生は、年齢や人生経験も様々で、看護以外でも異なった価値観・判断基準がありましたが、お互いの考え方を共有し合える、「トモダチ」になれたことも貴重な財産になったと思います。

博士課程設置経過

大学院博士課程設置について

平成17年11月末に大学院看護学研究科の課程変更申請が文部科学省から認可され、平成18年度から博士課程が設置されます。それともなって修士課程は博士前期課程に名称を変えます。本学の博士後期課程は看護学領域の1領域構成、定員3名で、北陸地区で最初の博士（看護学）の学位が取得できる大学院です。この課程の設置によって、本学は看護学の教育・研究機関としての組織をほぼ整え、北陸地区での看護学教育・研究の中核となる基盤を備えたといえます。

最初の後期課程入学者には本大学院の修士修了者や学内の若手研究者も含まれており、将来本学の研究・教育を担っていく人材、全国の大学や臨床現場に優秀な研究者・高度専門職業人を送り出すことが期待されます。実力ある博士号所持者を育成することを目標に本学大学院博士課程は歩み始めました。

卒業研究発表会



今年度で卒業研究発表会も第3回を迎えることができました。4月
にどの領域・講座で卒業研究を行うかが決まり、それぞれの指導教
員とゼミをもちながら、テーマの絞り込み、研究方法の検討を行っ
ていきました。実習体験から得た疑問を研究テーマにした学生もい
れば、自分たちの年代の健康問題に取り組んだ学生もいました。毎
年学生のユニークな発想や視点に驚かされます。今年度は、各領域
や講座で別々に発表会を開催するという新しい方式で行いました。
12月21日は健康科学講座と人間科学講座、12月26日は、基礎看
護学講座、母性・小児看護学講座、成人・老年看護学講座、1月6日

には地域・精神・在宅看護学講座の発表会が開催されました。各講座の先生方や卒業研究学生員の活躍でスムーズに発表会を運営することができました。開催日が分散した結果、学生たちもクラスメートの発表を数多く聴き、質疑応答にも積極的に参加していました。また、例年にない早い積雪にもかかわらず、研究フィールドの方々も聴きにきてくださり、活発な質問やご意見をいただくことができました。さらに、今年度から抄録集を作ったことで、発表会に参加するにあたってより個々の研究概要を理解して臨むことができたと思います。

修士論文発表会

平成16年4月に本学に充てられた修士課程はこの3月には第1回修了生を社会に送り出すことになっている。修士課程の修了要件の中には修士論文の完成が重要な位置づけになっており、その成果発表会が2月20日に行われた。

修士論文は2年次の授業科目「特別研究」の成果であり、論文作成の期間は約1年の期間があるが、その作成過程には迂余曲折があり、相当な努力が払われたと思われる。担当教員にとっても、院生にとっても本学においては初めての体験であり、修士論文の質をめぐっての議論もあった。論文の成果発表会は、これまでの中間報告会や審査委員会を経てのものであり、学内はもちろんのこと、学外からの出席者もみられるなかで、活発な質疑応答もみられ、まずまずと評価できた。院生にとっては各自の論文をさらに推敲し、その成果を社会に還元すべく公表の役割があると考えます。また、さらに発展させるべく努力が必要であり、そのことが大学院で学ぶ意味であると考えますが如何でしょうか？



卒業生の内定状況

3月現在の就職・進学内定状況は、これまでに引き続き第3期生についても100%となっております。

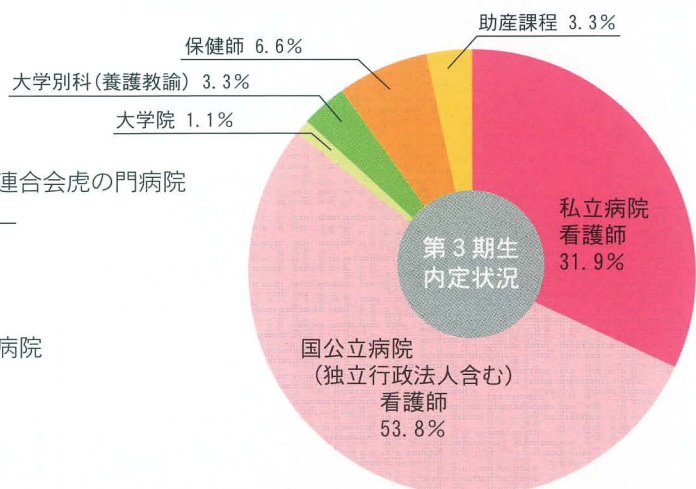
<県内就職>

石川県立中央病院
石川県立高松病院
国立病院機構金沢医療センター
金沢大学医学部附属病院
金沢医科大学病院
石川県済生会金沢病院
市町村保健師など

<県外就職>

北里大学病院
国家公務員共済組合連合会虎の門病院
国立国際医療センター
兵庫県立こども病院
富山県立中央病院
福井大学医学部附属病院
市町村保健師など

第3期生内定状況(平成18年2月末現在)



夏期アメリカ看護研修報告

引率教員 北岡 和代

平成17年度の国際看護プログラムである夏期アメリカ看護研修が実施（8月30日から9月12日）され、ワシントン州シアトルにあるワシントン大学に行ってきました。16名の学生（3年生13名、4年生1名、大学院生2名）がこの研修に参加し、私は引率教員として参加しました。

若さに満ちあふれた学生達の適応力はすばらしく、シアトル到着直後に催されたウエルカム・セレモニーにおいて、ニコニコと笑顔で関係者に話しかける（勿論、英語です）姿があり安心しました。翌日から英語レッスン、講義、医療・看護関連施設見学と盛りだくさんの研修プログラムが始まりましたが、皆疲れを見せず熱心に取り組んでおり、見るもの・聞くもの全てを吸収しようとしているようでした。そんな忙しさから解放されたのが週末でした。ホームステイをしているホストファミリーと共にシアトル市内や近くの観光地へ出かけるなど、それぞれの楽しみかたを満喫したようでした。2週間の研修はあっという間に終わりを迎え、ホストファミリーと抱き合い、涙の別れの場面に接し、引率教員としての苦勞が報われた思いでした。学生時代に過ごしたシアトルでの日々は、看護する者としての貴重な心の財産になることと思います。夏期アメリカ看護研修を無事終了するため、本学挙げての協力体制を組んでいただきました。関係者の皆様に感謝いたします。



●アメリカ看護研修報告会●

帰国後の10月3日、研修の修了証書授与式が行われ、また学生達による報告会が開催されました。研修で学んできた「アメリカの看護」について、その学びから考えた「日本の看護」について他の学生に伝えようと準備万端で臨み、とても有意義な報告会となりました。報告会を聞いた他の学生は大いに刺激され、次の研修参加を考える動機づけとなったことと思います。教職員にも一回り成長した学生達の姿を見ていただくことができたと思います。

アメリカ看護研修に参加して

3年 米崎ふみ代



私はアメリカ看護研修に向けて様々な期待や不安がありましたが、特にホームステイや授業で「英語でうまく現地の人々と

意思疎通できるか」ということが一番心配でした。やはり、初めは間違いを恐れて積極的に会話することができませんでした。しかし、アメリカで出会った人々はみな、自分の思いを積極的に相手に話そうとすると同時に、相手の話すことにも熱心に耳を傾ける姿勢があったため、徐々に積極的に話せるようになり、最後には、英語で会話することが楽しく感じられるようになりました。

また看護においては、アメリカにおける医療制度や、ホームケア、精神看護やがん看護、老年看護など幅広い分野について学ぶことができました。そこから、アメリカ独自の考え方や、日本にはない技術や特徴についても知ることができ、視野が大きく広がりました。ホームステイをはじめとした現地の人々との関わりや、看護研修を通して得たものは、今後の大学生活や社会に出てからも、様々な場面で生かされていくと思います。

3年 辻谷 雅美

今回私は、アメリカの文化や看護に魅力を感じ、研修に参加しましたが、研修が進む中で、日本の良さ、日本の看護の良さも知ることができました。きっかけは、アメリカの訪問看護施設で、物理的に1つの家庭に多くの時間を割けず、在宅では精神面への看護が行き届きにくい現状を知ったことです。精神面への看護は訪問看護では大切だと思っていたので、少しショックをうけました。また、初めはアメリカのおおらかな文化に戸惑っていたので、日本文化が繊細で暖かく思え、それが、相手の立場で思いを敏感に感じ取る日本の看護に関係しているのではと感じました。しかし、アメリカの文化の良さやその価値観に合った看護があることも知れ、それぞれの国の良さや必要とされる看護があり、互いの良い所をニーズに合わせて取り入れていくことの大切さも感じることができました。2週間の貴重な体験の中で、大学生活だけでなく、これからの自分にとって大きな学びを得ることができたと思います。初めての海外、異文化、英会話が日を迫うにつれ楽しく思えたのは、優しいホストファミリーやメンバーのみんな、先輩、先生方がいたからこそです。本当にありがとうございました。



キャンパスライフ

第6回看大祭を終えて

大学祭実行委員長 江田 敦美

4月に実行委員会を結成してから長いようで短かった7ヶ月間でした。結成した当初は大学祭を成功することができるか不安でいっぱいでしたが、たくさんの方々のご協力の下、10月29・30日に開催された第6回看大祭は大成功を収めることができました。今年は「WA!!」をテーマに掲げ、学生が一丸となってひとつの「WA」を作りあげることができました。今年の看大祭は、「看大をもっと知ってもらおう・つなげよう地域の輪・みんなの看大祭」という3つのコンセプトをもとに昨年からの企画の改善や今年ならではの新しい企画の考案を行いました。昨年好評だった看護体験では、看護技術を受けてもらうだけではなく、お客さんが学生と一緒に看護技術を学んでいただくという点に気をつけて企画を考えました。また、今年初の企画としてお化け屋敷がありました。最初は、本当に講義室がお化け屋敷になるのか不安な面もありましたが、当日は廊下に長い列ができるほどの盛況で、大成功に終わりました。金森俊朗先生による講演会では、感動して涙を流されるかたもたくさんおられ、多くのお客さんから、「すばらしかった。」「感動した。」などの感想をいただきました。大学祭当日は天候が悪く、お客さんが来てくださるか本当に不安でした。しかし、大学祭の盛り上がりとともにキャンパスにお客さんがあふれていました。今年は、小さいお子さんからお年寄り、若い人たちまで幅広い年齢層の方々に来ていただけたように思います。講演会では250人、映画上映では200人もの方が来てくださり、予想を上回る方々がきてくださいました。

4月から大学祭の成功を目標に私たち実行委員はがんばってきました。大学祭を成功させることができ、本当に達成感と充実感でいっぱいです。このように大学祭を成功に終わらせることができたのも、たくさんのご協力をいただいた地域の皆様、見守ってくださった後援会の皆様、ご指導してくださった先生方のお力添えがあったからだと思えます。本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



サークル活動紹介

アートサークル

4年 谷保由依子



アートサークルには決まった活動日というものがないため、サークル員それぞれが自分の自由な時間に部室で創作活動を行っています。作品は絵画が主で、水彩・油彩・パステル・色鉛筆等、個人が自由に選んで描いています。もちろん、絵画に限らず創作活動全般が活動内容に含まれます。完成した作品は主に大学祭にて展示しており、昨年度も多数の作品を展示しました。室内の活動が多いのですが、春には宝達山へ写生に行く等、野外での活動も行っています。自然に囲まれての活動は室内とはまた違った良さがあります。よく、サークル室に数人集まってそれぞれ自分の作品を作ることがあります。作業自体は別々ですが、会話を楽しんだり、作品のアドバイスをされたり、また誰かが作品を仕上げると一緒に完成を喜んだりします。アートというと個人の趣味のようなイメージがありますが、一概にそうとも限りません。アートサークルは「創作する過程を皆で楽しむ」、そんなサークルです。

華サークル

4年 田中 順子

私たち華サークルは月1回、心の豊かさを培うことを目的として、華道の基本取得、フラワーアレンジメントなどの創作活動を行っています。古流師範の小山由紀美先生に教えていただいています。練習の成果は、入学式やオープンキャンパス、大学祭などで発表しています。今年度の大学祭では、「ウェディング」をテーマとして学年の壁を超え、華サークルの全員が一体となってひとつの空間を造り上げることができました。卒業式では教職員や在学生の方々の協力を得て、卒業生にコサージュを贈ることができました。また、ワシントン大学のルイス先生など、お客様がいらした時にもお花を飾らせていただいています。華道を通して学んだことは、様々な角度から物事を見るということや花が生活を潤したり、人を励ましたり、癒したりと様々なパワーを持っていることです。また、振り返りを大切にし、よりよいものを目指していくために日々努力することは、華道と看護の共通点だと感じます。私たちが華サークルでの活動を通して学んだ心を、大学を訪れる方にも感じていただけるようにこれからも活動に取り組んでいきたいです。



この1年を振り返って



基礎看護学実習Ⅰ
1年 山下由紀

私は、精神・身体に障害を抱える方が利用する施設で実習を行いました。初めての实習だったのでとても緊張しました。また、まだ知識や技術が乏しい私にできることはあるのだろうかという不安もありました。

初日は自分から話しかけることがなかなかできませんでした。緊張していたのもありますが、話しかけて嫌がられたり迷惑がられたりするのが怖いというのが最も大きな理由でした。だから、話しかける時も自然と話しかけ易そうな方を選んでしまっていました。この日のカンファレンスでこのことを反省し、“精神的なコミュニケーション”を次の日からの目標にしました。目標に近づくために、私は話しかける時に相手を選ばずいろいろな方に話しかける努力をしました。そうすると最初は不機嫌そうに見えた方でも実際に話してみるとそれは私の思い込みだったということが多々あったのです。この経験を通じて、見た目だけでその方の性格や気分を判断するのではなく、会話などで接してから初めて判断することが大切なのだと気付きました。

また、実習が始まる前、私は入居者・利用者の方々の方が障害を抱えているというだけでこの人達は自分達とは違う弱い存在だと思ってしまっていました。だから、実習の最初のほうは話をする時も言葉を選んで相手の方を傷つけない様にしていました。まるで、壊れものを扱うような接し方でした。このような接し方をしている時はお互いにどこかぎこちなく笑顔もあまり見られませんでした。

しかし入居者・利用者の方々とは時間を共有していくにつれて、この方達は障害を抱えているということ以外は私達と何も変わらないのだと思うようになりました。そう思うようになると、相手の方に言葉を選ばないで自分の素直な気持ちを伝えられるようになりました。また、最初はあんなにも自分から話しかけることを躊躇していたのに自然と話しかけられるようにもなりました。

最初に述べたように、私は実習が始まる前は自分には何もできないのではないのだろうかと思っていました。でも、実習を通じて知識・技術がなくてもできることはたくさんあるのだと感じられました。それは話し相手になったり、困った時に手を貸すといったささいなことです。でも、このささいなことが相手の方にとってはとても重要なことなのです。このことをこれからもずっと忘れないでおきたいです。

私は基礎実習Ⅰでいろいろなことを学びました。この学んだことをこれからの実習や臨床の場でも生かしていきたいです。



第Ⅴ段階実習
3年 渡辺真季

張り詰めた緊張感を持って臨んだ第Ⅴ段階実習は、患者さんの笑顔や、仲間の励まし、また先生方や家族に支えられながら無事に終わることができました。臨床の場では、患者さんの心細さを垣間見たとき、看護する者として十分に対応できていないのではないかというもどかしさを感じ、悩む日々もありました。そのため、その日の実習での反省点やさらに提供していくべきケアについて、帰宅してからは再構成を通して振り返ったり、文献で調べたことを繰り返し行いました。疑問はその日のうちに解決しておくことで心にゆとりが生まれ、翌日ベッドサイドに行ったときは笑顔で接することができるように思います。そして、クールを重ねていくことで、看護にとって必要なことは、患者さんの求めるニーズに沿って患者さんと一緒になって取り組んでいくことであると改めて実感することができました。また、看護はコミュニケーションが欠かせません。患者さんとはもちろんのこと、スタッフとのやりとりなど自分の考えていること、感じたことを表現する能力は、日頃から培っていくことが大切であると痛感しました。何よりも、患者さんから教わることは大きく、感謝の気持ちを持ちながら実習期間を過ごしてきました。課題も多く残った実習でしたが、それが見えたことを収穫として、今後の看護の学びを深めていきたいと思っています。

この1年を振り返って



1年
基礎看護学実習Ⅱ
美千子

基礎看護学実習Ⅱは、「健康障害があり、入院治療を受けている対象の特性と看護の必要性への理解を深める。さらに具体的な看護援助を計画し、適切な看護を実際に行うことを通して、看護職者として必要な態度を身につける。」という実習目的をもって、実習に望みました。私にとって、この実習とこれまでの実習との1番の大きな違いは、今回の実習で初めて患者さんを受け持つという点でした。うまく実習を乗り切っていけるのか、病院という現場で自分にできる看護技術を患者さんに提供することができるのか、という不安と、自分にできることはあまりないんじゃないか、限られているんじゃないかという消極的な気持ちがありました。受け持ちの患者さんにも会い、とうとう私の基礎看護学実習Ⅱが始まりました。しかし、自分が今何をしたらいいのか、今日患者さんにどんな援助をしようか全然わかりませんでした。患者さんと話をする、看護師さんの患者さんへの援助を見る、カルテを見る、そんな日がしばらく続きました。この援助をしようと思い、行動計画をたてても、あなたはどのようにしてこの援助が患者さんにとって必要だと思う？と聞かれると答えることができませんでした。患者さんへの看護の方向性が見えず自分の中で行き詰ってしまいました。しかし、この自分の思いを同じ班のメンバーや先生に言ってアドバイスをもらったり、実習の後の看護師さんとのカンファレンスの議題として提案することで、今まで自分の中でつながらなかった患者さんの1つ1つの情報が少しずつつながっていきました。それからは患者さんの現在の状態で自分のできる範囲で何ができるのか、必要なのかを少しずつ考え、行動に移していくことができたんじゃないかなと思います。

プリント上ではない実際の患者さんとの触れ合いを通して、自分の立場にたって、患者さんへの看護を行うのではなく、患者さんの立場にたって、自分が今できる範囲で行えることを考え、提供していくことの大切さを学びました。同時に患者さんの1つ1つの情報をつないでいくための知識不足も感じました。また、技術面だけでなく、患者さんの心理面にもつながりを持っていくことが看護を行ううえで欠かせないことです。そのためにもやはり、患者さんを知ろうとする態度が1番大事になってくるんじゃないかと、この実習を通して強く感じました。これからまた実習が入ってきます。この基礎看護学実習Ⅱで多くのことを感じ学びました。この学びを今後に反映していけるように、学校の仲間と一緒にこれからも頑張っていこうと思います。



1年
大学院
佐藤可奈

朝、院生室の扉を開けると机の上の教科書や資料、ファイルの山が目飛び込んでくる。4月。まだ、まっさらだった机や空っぽの本棚、整然とした院生室を懐かしく思う。今では院生室の9つの机には誰の机か自明なほど使う人それぞれの個性が表れ、収まりきらない講義資料のファイルや教科書が本棚の上へと飛び出している。収まりきらないほどいっぱい詰まった、この本棚の様に私自身はどのくらいのものが得られたのかとこの1年を振り返る。県外へ演習に何度か行き、看護のスペシャリストとして活躍している方々の活動を学んだ。看護分野だけではない先生方から様々なことを教わった。院生の仲間同士でのディスカッションも沢山した。多くの情報が溢れる大学という環境の中で、大学の施設内だけにとどまらない大学院での学びの中で、得たものは多い。しかし、今はまだ、私の机や本棚同様に私自身も情報が氾濫しており整理がついていない状況である。春からは本格的に特別研究に取り組むこととなる。今まで学んだことを生かし大学院での学びの集大成として修士論文作成したい。そのために、まずは本棚の整理からはじめようと思う。

当館は、県民に開かれた図書館としてサービスの拡充に努めております。昨年、おかげをもちまして、医療関係者等を中心に学外登録者数が1,000名を超えました。そこで、利用の便宜をはかることを目的に、10月より下記のとおりホームページを更新しております。

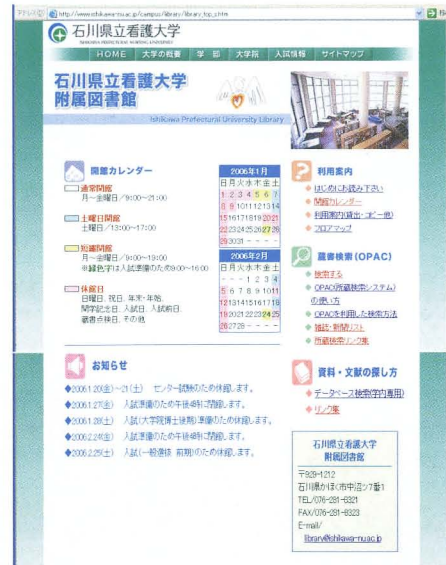
アドレスは、http://www.ishikawa-nu.ac.jp/campus/library/library_top_s.htmです。

インターネットの項目検索で、石川県立看護大学のホームページからアクセスすることもできます。

まず、右図の《図書館トップページ》に、**開館カレンダー**や**お知らせ**を掲載しましたので、直接当館へご来館される際にご利用いただければ幸いです。

そのほか、当館所蔵雑誌リストや関係機関へのリンク先も掲載しておりますので、ぜひご利用ください。

なお、今後もサービスの向上に努めたいと思いますので、お気づきの点やご質問等がありましたら、お気軽にお声をかけていただければ幸いです。



看護大学卒業生活活動支援研修から

平成17年度看護大学卒業生活活動支援研修会が11月25日(金)に開催されました。参加者は98名でした。看護師1・2年目70名、本学の4年次生が28名でした。講師は聖マリアンナ医科大学病院(神奈川県川崎市)の陣田泰子看護部長をお招きしました。講演タイトルは「私のキャリアをデザインするー愛は脳を活性化するー」でした。

講演の内容は、36年間看護実践を追求し続けた陣田先生の看護実践体験をもとに話されました。講演をきいていた1・2年目の臨床看護師や本学の4年次生の目は、いきいきと働く聖マリアンナの看護師の方々のスライド写真をみて、輝いていました。更に看護師としての陣田先生の生き方を決めた筋萎縮側索硬化症という病に罹ったAさんの事例では、10年看護を行って見えたベテラン看護師の知を伝えてくださいました。

陣田先生の名言「事件は現場でおきるんだ!!」「実践の場こそ教師!!、今抱えている問題、困難こそスキル上達」とはなされました。講演の後半で、「人間は情を受け入れ、意を向上し、知が働く生物である。よって情こそ脳というエンジンを最もよく働かせるガソリン」と90分の講演で137枚のスライドをご用意いただきました。今回の講演で紹介されなかったスライドは今後の臨床の看護の場で必要になれば紐解いてくださいとメッセージを残して講演会は終了しました。講演会の感想には、看護の大きな力を感じたとか、あきらめない看護をしていきたいですと看護を形に残すことをまず行いなどの感想がかかれていました。



キャンパススケジュール 2006年度

前 期	入学式	4月 5日(水)
	ガイダンス	4月 6日(木)~4月 7日(金)
	健康診断	4月 7日(金)
	授業開始	4月10日(月)
	履修登録受付	4月10日(月)~4月21日(金)
	開学記念日	5月29日(月)
	オープンキャンパス	7月下旬
	補講・試験	7月25日(火)~8月 9日(水)
	夏期休業	8月10日(木)~9月30日(土)
	夏期アメリカ看護研修	8月29日(火)~9月11日(月)

後 期	授業開始	10月 2日(木)
	履修登録受付	10月 2日(木)~10月13日(金)
	大学祭(看大際)	10月28日(土)~10月29日(日)
	冬季休業	12月25日(月)~ 1月 6日(土)
	大学入試センター試験準備日	1月25日(金)
	補講・試験	2月19日(月)~ 3月 9日(金)
	春季休業	3月26日(月)~ 3月31日(土)
	卒業式・学位授与式	3月17日(土)予定

発行 ● 石川県立看護大学広報委員会

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1
 TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
 URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>
 E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp